

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月21日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870105610
事業所名	グループホーム 我が家
(ユニット名)	ユニット 1
記入者(管理者)	
氏 名	白川 美紀
自己評価作成日	平成30年1月28日

【事業所理念】 「気がつく 気になる 気が利くケアを」	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 災害時の対策を議題とした運営推進会議を開催し、町内会長や民生委員等と災害時には協力し合う体制で話し合いを行ったが、具体的な話が出来ていない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 職員は、利用者が自分らしさを発揮した笑いの絶えない事業所を目指し、一人ひとりが持っている能力を発揮、維持できるよう支援している。町内会長を務める事業所の家主の協力を得て町内会行事に参加しており、夏祭りを開催する際には近隣住民に参加を呼びかけて交流している。また、かかりつけ医や訪問看護師による24時間医療体制を整備して看取りを実施し、利用者が住み慣れた事業所で穏やかに最期を迎えられるよう支援している。職員は研鑽を積みながら、自分や家族が入居したいと思う事業所づくりに取り組んでいる。
--------------------------------	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話を大切にし、その中から本人の思いを把握するように努めている。	○		○	共用スペースでの日常会話のほか、居室や入浴介助時など、1対1になる時間を活用し、思いや意向の把握に努めている。意向を表すことが困難な利用者は日常の観察を通して推測し、表情や反応からも汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の様子に気を配り情報を共有しながら、常に本人の立場に立ち検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会の際に現在の本人の様子など話をする機会を持つようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	本人の情報をケースファイルに記入し共有するようにはしているが、整理は出来ていない。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の会話を皆で共有し、色々な角度からの意見を話し合う機会を持てるよう努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	可能な限り入居前に生活歴や生活環境、趣味などを聞くようにしている。入居以降も本人や家族から聞くことを心掛けており、職員間で情報の共有に努めている。			○	入居時に利用者や家族から、生活歴や環境、趣味等についての情報を収集し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人とのコミュニケーションの中から、現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	様々な場面での出来事について、ケースファイルや申し送りなどを利用し職員間で共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	本人の話を傾聴し、職員間で対応を考えるようにしている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送りノートやケースファイルを活用し、個々の状況変化にも対応出来る様努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の気持ちを大切にし、思いを実現しようという気持ちで考えるようにしている。			○	職員による担当制を敷き、相談しながら生活上の課題の分析や検討をしている。利用者の思いが叶えられるよう、利用者の視点に立った分析ができるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族や主治医とも連携を図り、本人にとってより良い生活が送れるよう検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスなどで一人ひとりの課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向が出来る限り反映出来るよう話し合いを行っている。				協議の場に、利用者や家族、医療関係者が同席する機会はないが、暮らし の中で把握している内容や、面会時に確認した家族の意向、診療時の医 療情報等を勘案してケア目標を設定し、利用者の持っている能力を引き出 し、維持できるよう支援内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方 について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の現状、面会時等に聞いた家族の意見、訪問診療等での主治医への相談・指示をもとに職 員間で話し合いを行い計画書を作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし 方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族と協力しながら慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方が出来るよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体 制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との協力体制は出来ているが、地域との連携は出来ていない。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職 員間で共有している。	◎	ケアプランの内容についてはほぼ全員で話し合いを行い、欠席者のある場合は、申し送り、議事録 などで共有をしている。			○	カンファレンスの内容を共有し、ケア目標やサービス提供時の留意事項を 把握している。介護計画は個別ケースファイルに綴じ、常に確認できるよう 工夫している。管理者は介護計画に沿った支援内容や、その結果の記載 は不十分であると考えており、現在記録について学習を重ねている。利用 者一人ひとりの日々の暮らしの様子は、個別に記録している。今後は、根 拠のあるモニタリングを効率良く行えるよう工夫した記録や、職員の気づき やアイデア等についても記録することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どう だったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	○	実践した内容については経過記録に記入する様にしている。それを踏まえ、職員間で状況の把 握・確認を行い、日々の支援に?げている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・し ぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的 内容を個別に記録している。	○	個別の経過記録に記入している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイ デア等を個別に記録している。	△	気づきやアイデアについて、申し送りでは出来ている事もあるが、個別の記録には至っていない。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	必ず3か月に一度、計画書の見直しを行っている。			◎	毎月職員会議で現状確認を行うと共に、担当職員が中心になって3か月毎 にモニタリングを実施し、カンファレンスで検討して介護計画の見直しを行っ ている。状態の変化があった場合は、その都度関係者を交えて話し合い、 現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現 状確認を行っている。	○	月一度の職員会議で現状確認を行っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合 は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行 い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった場合は、職員間、主治医とで連携を図り対応をしている。家族へも現状の説明及び 報告、家族の意向も含め今後についての話し合いをその都度行う様にしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定 期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議 を開催している。	◎	職員会などを利用し、職員間で話し合いを行っている。緊急案件については、臨時全体会議を行って いる。			◎	毎月開催しているカンファレンスで検討しているほか、申し送り時に気づき や提案を出し合って協議している。検討した内容は申し送りノート及び議事 録を作成して回覧し、押印して周知するよう工夫している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率 直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場 づくりを工夫している。	◎	全員から意見を聞き発言出来る様にしており、活発な意見交換が出来ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの 職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫してい る。	◎	開催日時を1か月前に決めており、日中行事として日程を組み込んでいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容 を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議議事録を作成し、全職員に回覧及び詳細は申し送りにて正確に伝達する様にしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に 検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し、情報の伝達・共有を行っている。			○	日々の伝達内容は申し送りノートを活用し、確認印を押している。医療情報 については専用記録簿に経時的に記録し、情報を伝達している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全て の職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に 関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートで情報の伝達・共有を行い、詳細については経過記録に記入する様にしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人の様子や会話を通して希望願望を把握し、それが叶えられるよう話し合い検討している。	/	/	/	利用者がどうしたいのか常に問いかけ、意向に沿った支援ができるよう心がけており、職員は様々な場面で利用者を選択、決定してもらえるよう働きかけている。また、一緒に楽しめるような雰囲気づくりに努め、食事介助をしながらも心地良い会話を続けている様子が印象的である。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	様々な場面で選択出来る機会・環境作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	分かりやすい話し方や接し方などで、本人が自己決定出来る環境・関係作りに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースに合わせながら、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の好きな事や興味のある事を把握し、関わりを持つようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	傍に寄り添い本人の表情や仕種などを注意深く観察し、本人の思いを汲取ることが出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会や研修などで学ぶ機会をつくり、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応を行うよう努めている。	○	○	○	管理者は職員に対して常に自分に置き換えて考えるよう指導しており、利用者に敬意を持って接するよう心がけ、親しい関係の中でも優しく丁寧な声かけをしている様子が見られた。不適切な対応に気づいた時は、その都度注意喚起を行い、見直しの機会を設けている。入浴介助時は羞恥心に配慮し、同性介助を行うようにしている。居室扉は閉じ、入口に長暖簾をかけることで廊下から部屋の中が見えないよう工夫している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	敬意をもって利用者と接する事を心掛けており、プライバシーに関することはさりげない対応をするよう努めている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	扉を閉める、ドアをノックして声掛けを行うなどプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は利用者の占有場所である事を理解し、入室する場合は、ノック及び本人への声掛け、了承を終えてから行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会などで学ぶ機会を設け、個人情報の取り扱いについては理解、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活の中で出来る事はして貰える環境をつくり、分からない事などは教えて貰ったり助言を貰い、感謝の気持ちを伝えながら、共に生活をしているという事を意識しあえる関係作りに努めている。	/	/	/	利用者同士で肩もみをしたり、一緒に調理の下ごしらえをしたりなど、互いに支え合っている。孤立しがちな利用者には声をかけているが、無理強いないようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係を理解し、より良い関係作りが出来るよう心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日常の中から利用者同士の関係を観察・把握し、より良い関係性が保てるように席決めをしたり、世話役に入ったりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際は双方から各居室で話を聞き、解決策を見つけるよう努めている。他利用者へのフォローも行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人との会話や、入所時・面会時に家族や関係者から話を聞くよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との会話や家族・関係者の面会時に、これまでの暮らしの様子や馴染みの店などを聞くよう努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族に協力をして貰い、馴染の場所や知人宅への訪問等出来るよう努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会の際は、気兼ねなく過ごして貰える様、居室で対応している。いつでも気軽に訪れて貰える様、職員の明るい対応を心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	本人の希望に合った外出支援が出来るように努めている。また、職員では対応が難しい時は家族に協力して貰うときもある。	×	○	○	気候の良い時は、近隣の住宅地を散歩したり、近くのスーパーやコンビニで買い物したり、玄関のベンチに腰かけて外気浴を楽しんでいる。重度の利用者もテラスに出て日光浴をしており、シャボン玉をすることもある。家族の協力を得て、季節の花見に出かける利用者や、自宅に帰る利用者もいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティア、サポーターとの協力体制が出来ておらず、外出支援の実現が出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い時には、敷地内ではあるが戸外に出て過ごせるよう努めている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	お墓参りや実家など、家族に協力して貰いながら、本人の希望に添えるよう努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症について理解しつつ、なぜそうなるのかを常に考え、職員間で話し合いを行い、状況の改善に努めている。	/	/	/	生活の中で活動的に過ごすことが心身機能の維持向上に役立つと考えており、できる家事は一緒に行い、計算ドリルなどの得意なことを楽しんでもらえるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下については学ぶ機会を都度設けている。食事前の口腔体操やリハビリ体操、生活リハビリを通して、維持・向上が図れるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	利用者の力を把握し、個々のレベルに合わせた対応が出来るよう環境・場面作りに努めている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	面会や本人との会話などから思いを聞き把握に努めている。	/	/	/	洗濯物干しや調理を自分の役割だと思って行っている利用者もいる。入居時不穏状態にあった利用者に掃除を依頼し、感謝の言葉を返したことで、安心してもらえたこともある。また、縫い物や編み物、塗り絵など、好きなことを楽しんでもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々のレベルを把握し、自分から進んで何かに取り組む意欲や喜びを感じて貰えるような環境作りに努めている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事の参加など地域と触れ合う機会を設けているが、役割などが持てるまでには至っていない。	/	/	/	

愛媛県グループホーム我が家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人と相談しながら服を選んだり、希望される方には化粧の手伝いをしたり、その人らしさが保てるよう支援している。	/	/	/	整容の乱れや食べこぼしに気づいた時は、さりげなく居室に誘導し、着替えてもらうようにしている。重度の利用者については、毎朝整容や更衣介助を行い、共用スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時は馴染の物を持ってきてもらっている。本人の好みを聞きながら、希望にそえる様努めている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人に確認しながら、一緒に考え支援する様努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出などの時は、前もって本人・家族と相談しながら準備している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人のプライドに配慮し声掛け等行うよう努めている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望者には家族に協力をして貰い、馴染の店へ行けるよう支援している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	2か月に一度訪問理容で、カットして貰っている。起床時には、着替え、整容を行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べる事の大切さ、食事の楽しさを理解している。	/	/	/	週3回買い物に行って購入した食材を見て、利用者の希望も聞きながら献立を考え、各ユニットで調理している。利用者は野菜の下ごしらえや調理・食後の片付けなど、できることを手伝ってもらっている。利用者の好みや要望を考慮し、昔懐かしいものや季節感のあるものをメニューに取り入れている。茶碗や湯呑は使い勝手のいい個人専用のものを使用している。重度の利用者も食べたいという意欲を持ってもらえるよう、食材の話をするなど配慮している。職員も一緒に食卓を囲んでおり、優しく声をかけながら食事介助をしている。献立を考える時は、前日のメニューを確認し、蛋白質食材を適切に取り入れるなど、利用者の栄養バランスを第一に考慮し偏りがないよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	出来る事には参加して貰っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者に手伝ってもらうことで自身の役割を実感して貰えるよう支援している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	日々の会話や家族からの聞き取りなどを通し、好みやアレルギーなどを把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者のリクエストや行事食を通して、季節感のある食事の提供に努めている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	咀嚼が不十分な方にはミキサーや刻みを入れ、出来るだけ味を損なわない様配慮し、利用者の状態に合わせた食器・食事形態で提供している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	馴染の物を使用して貰っている。食事の状況を観察し、本人に合ったものを使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食事をしながら様子観察を行い、必要な利用者にはさりげないサポートや声掛けを行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度であっても一緒に食卓を囲み食事を摂って、家庭的な雰囲気を味わえるよう努めている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりの1日の食事量・水分量はチェックし対応できている。栄養士不在のためカロリー計算までは出来ていない。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取の少ない利用者には、小まめな声掛けや本人の好みの物を提供したり、食事量が少ない場合は、本人の食べれるものを提供したり、主治医に相談し栄養補助食品などを使用したりしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	週3回職員がバランスよく食材を購入し、各食事担当者が食材を余すことなく調理している。定期的に献立については話し合いをしている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日、調理器具・布巾の消毒を行っている。食材は賞味期限をみて調理を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性は学ぶ機会を設けており、重要性は理解している。				口腔ケアは毎日行っており、職員全員が利用者個々の口腔内の状態を把握している。利用者に合った義歯を調整することで、食事時の座位姿勢が改善した利用者もあり、口腔ケアの効果を実感している。訪問歯科診療を利用し、ブラッシング指導を受けている利用者もいるなど、職員が協働し口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	毎日のの口腔ケアで状態の把握に努めている。訪問歯科による健康チェックを行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科より正しい口腔ケアの仕方や利用者に合った歯ブラシの指導を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れが適切に行えるよう声掛けやに見守り・介助を行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	一人ひとりの能力・習慣に合わせた声掛けや見守り・介助を行い、口腔内の健康維持に努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	訪問歯科と連携を図り、状態改善に努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立は生きていく上で大変重要であり、オムツの使用が心身に与える影響が大きい事を理解している。				利用者一人ひとりの排泄機能やパターンを把握し、状態や時間に合わせて適切な排泄用品が選択できるよう話し合って決めている。費用負担を考慮し、使用状況の再検討を行うなど、利用者個々の状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会などで学び理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	時間ごとの一人ひとりのチェック表を作成し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的に会議などを利用し、職員間でオムツ使用について話し合い見直しを行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	衣服や健康状態など困難にしている原因を探り、改善に向け職員間で検討し取り組むよう努めている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	チェック表から本人のパターンを把握し、早めの声掛け誘導を行うよう努めている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツを使用する際は、本人に配慮しながら意向も踏まえて使用をしている。家族に現状の説明をした上で相談しながら使用するようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	メーカーの講習会などを行い、状態に合った使い分けが出来るよう努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	乳製品や食物繊維の多い物を取り入れるようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	一人ひとりのペースに合わせて入浴しているが、職員の人員配置により時間帯は決まっている。	◎		△	2～3日に1回、一般家庭浴槽に入浴できるよう支援している。入浴時間や湯の温度、入浴剤の使用などは利用者の要望に沿っているが、入浴時間帯は職員体制によって決められているため、利用者の意向に沿った支援にも取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々の好みや習慣に合わせて入浴が出来るよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はして貰い、安心して入浴出来るよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒む原因を探り、臨機応変な職員対応をしたり、家族に協力して貰ったりしながら快く入浴できるよう努めている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日のバイタル測定や健康状態を確認し、本人の意向を聞いたうえで、入浴の可否を決めている。入浴後のの状態観察も行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の睡眠状態は毎日申し送りを行い職員間で情報の共有ができています。				現在医師と相談し薬剤を使用している利用者もいるが、日中の活動を増やすようにするなど、安易に薬に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方などを職員間で検討し、質の良い睡眠が取れるよう支援に努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	様々な角度から出来る限り薬に頼らない改善策を検討している。家族や主治医と相談しながら薬の調整を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々のリズムや体調に配慮しながら休息が取れる様支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を所持したり手紙を出したり、希望する利用者には自由に連絡が出来るよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人の希望があれば、電話を掛けたり、伝えきれない事は職員が変わって伝えたりなど支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話は気兼ねなく話せるよう居室で対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたはがきや手紙を目の届くところに飾っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話や年賀はがきなど家族・知人に快く協力して貰っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	一人ひとりの能力に応じてお金を所持したり使えるよう支援している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	日常的に嗜好品の買い物に行く機会を設け、極力自分で精算をして貰うよう支援している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	常に職員同行で買い物に行っており、先方の理解や協力を得る働きかけは出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望を聞いた上で家族と相談し支援の在り方を決めている。金銭を所持することで精神に安定をきたす方については少額の金銭を所持して貰っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	金銭の所持方法については、入所時に家族・本人と話し合いをし理解して貰っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	金銭の管理方法や報告方法は契約時に家族へ説明をし同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の要望についてはその都度検討し、出来る範囲で実現できるよう柔軟な対応に努めている。	○		○	家族の協力を得て、自宅や墓参りに行ったり、法要に参列するなどの支援にも努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	玄関先にベンチを置き誰でも休息できるようにしている。	◎	◎	◎	玄関先には家族がつくった木製の長椅子があり、利用者だけではなく、近 所の子どもたちの遊び場としても活用されている。ゆるやかなスロープが設 置されており、車いす移動の利用者が容易に出入りできるよう配慮されて いる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそぐような設えになっていないか等。）	○	一般的な家庭の様なキッチン・リビングで、カウンターから常に会話が出来る造りになっている。見 やすいところに時計やカレンダーなどを設置し、日時が自分で確認できるようにしている。	○	○	○	オープンキッチンのある共用空間は明るく清潔で、椅子席とソファ席が設け られている。掃き出し窓からテラスに出られるようになっており、ベンチに腰 掛けて日光浴を楽しむことができる。毎日掃除を行い、こまめな換気を行う など、清潔保持に努めている。敷地内にある家庭菜園で、毎年中学生と一 緒に芋掘りをしたり、壁には行事写真、ユニット入口には雛人形を飾るな ど、季節感を感じられるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、小まめな換気と遮光に努めている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	壁には行事の写真を飾ったり、季節感のある飾りつけをしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングにはソファを設置し、それぞれが思い思いにくつろげるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	全てに扉があり直接見えない造りになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	入所時に使い慣れた物を自由に持ち込んで貰っている。配置に関しても本人や家族と相談しなが ら居心地良く過ごせるよう努めている。	○		○	エアコンやベッド、クローゼットが設置され、タンスや椅子、テレビなど好み の家具を配置するなど、居心地良く暮らせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者の力を把握し個々のレベルに合わせた対応が出来るよう、廊下やトイレ・浴室に手すりを設 置したり出来る限り自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。			○	建物全体がバリアフリー構造になっており、要所要所に手すりが設置され ている。表札を立体的にしたり、トイレ表示を利用者にわかりやすいよう工 夫するなど、利用者が自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	居室・トイレ・浴室などには分かりやすく表札をかけている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	ノートや筆記用具、新聞やリモコン等、それぞれに必要なものがいつでも手に取れるようにしてい る。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	○	代表者及び全ての職員が施錠することによっておこる弊害について理解している。	◎	○	○	職員は施錠による弊害について理解しており、日中玄関は自由に入出入りす ることができる。家族の要望で利用者の安全確保のため、ユニット入口は 鍵をかけているが、職員は常に利用者に寄り添っており、要望があれば出 入りすることはできる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵を掛けない自由な暮らしについて家族への理解は図っているが、徘徊による事故などの経験が ある家族は施錠への安心感が大きい。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	×	各ユニットの扉には暗証番号ロックをかけており、ロックが掛かる事で安心する家族も多く開錠に 至っていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴など留意事項について一目でわかるよう個人のケースファイル表紙裏に記入している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々のバイタル・食事量・排便の有無などをチェックシートに記入している。常に心身の観察を行い、変化や状態変化の詳細は経過記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医療連携により24時間体制で相談できるようにしている。些細な事でも相談できるよう日頃より関係を築いており、適切な対応が出来るよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前に本人・家族や担当ケアマネから受療状況を聞き把握している。希望の医療機関へ受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人の状態を考慮し、家族・本人と相談の上かかりつけ医を決めている。医療機関と連携を図り、本人にとって適切な医療が受けられるよう努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	往診結果は家族へ報告をするようにしており、必要に応じて相談・話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は本人の生活習慣や心身機能などの情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は病院へ行き本人の状態の把握に努めている。また主治医や担当看護師・関係者と、早期退院の為の情報交換や話し合いを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	交流会への参加等関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の状況報告は定期的に訪問看護へ行っており、相談・指示が貰えるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	必要時には随時相談できる体制をとっており、早期発見・治療に?げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個々のファイルに薬についてすぐに確認できるように薬情を入れており、利用者の薬の把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセットや服薬時は、利用者名、日付、時間を確認し事故防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状況を日々職員間で共有し、変化がある場合は話し合いをしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化や異常がないか常に職員間で情報を共有し、必要に応じて主治医へ相談、家族への連絡を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や状態変化の段階ごとに家族と話し合う機会を設け、意向を確認しながら今後の方針を共有している。				かかりつけ医と訪問看護ステーションによる24時間医療体制を整え、看取り対応は万全である。かかりつけ医を交え、家族と職員が利用者の状態の変化に応じ方針を話し合うなど、共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員間・かかりつけ医等と今後の対応について、繰り返し方針を共有している。。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の知識や技量、看取りについての思いを個々に聞き、どのような支援が出来るかを判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「できること・できないこと」を十分に説明したうえで、今後の方針を本人・家族と共に考えている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期を本人が安楽に過ごせるよう、家族や訪看・かかりつけ医と連携を図り、チームで支援できるよう努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	本人の様子を小まめに報告しながら、家族の思いを丁寧に聞きとり、心情を理解し支えるよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修や勉強会で定期的に学んでいる。感染症マニュアルの作成している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	口頭での説明は定期的に行っているが訓練には至っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から送られてきた情報や医療機関から入手した情報について、申し送りなどで情報の共有を行っている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時には、一時的な面会謝絶など随時対応をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い・うがい・消毒・マスク着用など感染症予防に随時対応している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	常に連絡・報告・相談を行い、必要に応じて家族にも関わって貰いながら共に協力し本人を支えていける関係作りに努めている。				家族と共に利用者を支援したいという考えを持ち、良好な関係が構築できるよう努めている。花見や夏祭りなどの行事を家族と一緒に楽しんでおり、年4回発行する便りに担当者が手紙を添えて利用者の状況や思いも伝えている。面会時には必ず声をかけて状況を報告し、要望を聞いている。「家族へのお知らせ掲示板」を設置し、事業所の運営面等伝達事項を家族に伝えるよう工夫しているが、周知には至っていないため、文書を送付するなど、積極的に取り組んでもらいたい。家族の面会時にはいつでも相談できるような環境を整備し、気軽に話し合えるような関係づくりにも努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	落ち着いて話せるよう居室で対応しており、必要であれば声掛けをして貰うよう伝えている。全職員、笑顔での対応を心掛けている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	花見や夏祭りなどの行事には一緒に参加していただき、ホームでの活動に参加出来るよう努めている。	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	年に4回我が家便りを発行し、写真や活動状況を記入し送付している。個々でアルバムを作成しており、面会の際には見て貰っている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時などに家族と話す時間をつくり、知りたい情報の報告を行うよう努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	認知症の関わり方や病気についての理解等、家族が抱えている問題を把握し、本人とより良い関係が築いていけるよう支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	事業所の運営上の事柄や出来事については、文章でその都度報告し、同意を得ている。人事については、口頭などで随時報告している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	行事を通して家族同士の交流が図れる機会を提供している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	利用者の状況変化のたびに家族と話し合いを行い、起こり得るリスクについて説明している。本人・家族が納得のいく対応が出来るよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には必ず挨拶・近況報告を行い、相談しやすい関係作りに努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約内容についてはその都度具体的な説明を行い、理解・納得して貰っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至る過程を細かく説明し、納得して貰っている。退居先については家族の希望や本人の状態に適した場所へ移れるよう努めている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	契約時には具体的に説明を行い同意を得ている。改定時には文書にて説明、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	町内会への参加、地域のボランティアを招いての施設行事を行い、事業所について理解を図る努力をしている。		○		町内会に加入し、町内会長を務める事業所の家主の支援を受け、情報を得ながら地域交流の機会を持っている。夏祭りを開催する時は近所にチラシを配布して呼びかけ、多くの住民が集っている。また、地区敬老会に参加しているほか、舞踊ボランティアや中学生の体験学習の受け入れを行うなど、地域との交流も盛んである。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	日常的な挨拶や町内会行事への参加、施設行事への地域の方の参加を通して地域との繋がりに努めている。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	殆どできていない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	玄関先にベンチを置き誰でも休息できるようにしている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	玄関先が近所の子供の遊び場になっており、日頃から挨拶する機会はある。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	年に数回地域ボランティアの方による施設行事を行い、交流を通して利用者の生活の充実を図るよう努めている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握が不十分である。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	×	近隣の福祉施設とは交流があるが、地域施設への働きかけは出来ていない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ほぼ毎回、利用者や家族、民生委員などの参加がある。	×		○	運営推進会議は、利用者や家族、町内会長、民生委員などの参加を得て開催し、利用者の状況や行事内容、外部評価の取組み等について報告し、参加者からの意見を職員会議で検討し運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	会議では、評価内容や計画内容や取り組みについて報告をしている。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回参加者からも意見などを聞き、それに対しての取り組みや状況の報告等行うよう努めている。		○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議中に次の開催日程をその都度伝えている。参加しやすい日時の確認も行う様にしている。		○		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は、施設内掲示板にて公表している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各階に運営理念・ケア理念を掲示し、管理者・職員は日々のケアが理念に基づいたものになる様努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各フロアの目につきやすいところに理念を掲示している。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修や勉強会への参加は自由に出来るようにしており、参加費用についても会社が負担している。				代表者は研修への助成制度を設け、職員の研修参加を積極的に推進するほか、年2回内部研修を実施して職員の質の向上を図っている。また職員の要望を聞き、働きやすい職場環境整備にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	希望の研修には参加できるよう勤務の調整を行っており、スキルアップ出来るよう努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来る範囲で努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	希望者には交流会や研修・勉強会などへの参加機会をつくり、意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来る範囲で取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修や勉強会に参加して学ぶ機会を設け、日常的にも不適切なケアについての話し合いを行っている。				不適切ケアにどのようなものがあるのか、振り返る機会を持って話し合っている。不適切な言動に気づいた場合は、その都度注意喚起を行うなど、職員は対応方法や手順について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の状況を職員から聞くようにしており、問題点については一緒に考えるよう努めている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアは無いか常に注意を払い、報告・連絡・相談を行い防止に努めている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々注意を払い点検している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束をしないケアについて、勉強会で学んだり会議で話し合いを行い周知している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度話し合い検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束の弊害についての説明を行い、様々な角度から提案・相談しながら、拘束しないケアへの理解を図るよう努めている。				

愛媛県グループホーム我が家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	一部の職員は理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者や家族の状況を理解した上で、情報の提供や相談にのる等支援に努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	市役所や包括等と必要な際は相談出来るよう連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、いつでも見られるように各フロアに置き周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	社内外での研修で実技訓練を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット・事故報告は必ず職員間で回覧し、再発防止策の話し合いを行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりのリスクについて、日ごろから検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の対応についての理解と適宜対応方法の検討に努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については速やかに対応し、必要と思われる場合は市への相談・報告を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対する対策案を速やかに回答し、改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の利用者との会話から要望・苦情を聞き出すよう努めている。何でも話して貰える関係作りに努めている。			○	利用者の意見や要望は日常会話の中で聞き取るよう努めており、家族は面会時や運営推進会議で意見を言う機会がある。管理者は職員と個別面談の機会を設けており、意見や提案を出しやすい環境である。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を明確にし、面会時や電話等いつでも要望・苦情を伝えられる機会をつくり、関係作りに努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に明記しており、家族へ周知している。必要に応じて随時情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運ぶ等行い職員の意見や要望・提案などを聞くよう努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	適宜個人面談を行い、職員の意見や要望・提案を聞く機会をもち、共に検討している。			○	

愛媛県グループホーム我が家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	より良いサービスに繋げるためのサービス評価である事を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。				職員は自己評価表を読むことで、何が求められているのか再認識する機会になったと感じている。評価結果や目標達成計画の実施状況については運営推進会議で報告し、参加者からは建設的な意見をいただき、今後の事業所運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して明らかとなった現状や課題を知ること、職員間の意識統一や知識・技術の向上のための学習に取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成に向け取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	推進会議で評価結果・目標達成計画の報告を行い、参加者から助言や提案を頂いている。	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議や職員会議などで取り組みの成果を報告し、確認を行っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害時対応マニュアルを作成し、職員は周知している。				火災避難訓練だけではなく、その他の災害避難訓練についても検討しており、近隣の認知症高齢者を受け入れすることも考えている。そのため、備蓄品の整備や地区防災組織との協力体制について具体的方策を検討しているなど、緊急災害時等の地域との連携強化の取組みを考えており、今後に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回、日中・夜間を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は年2回行っている。その他の備品については定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議などで町内会や民生委員と話し合い、連携が図れるよう努めている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の交流会などに参加し、ネットワークづくりに努めている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーター養成講座開催のサポートや研修への参加など、地域に向けての情報発信や啓発活動などに取り組んでいる。				現在のところ相談があるのを待っている状況で、消極的な感じがするので、事業所のPRを行うなど、相談ニーズの収集にも積極的に努めるなどの取組みが望まれる。地域からの要請を受け、小学生を対象とした認知症啓発活動に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたりしているが、不十分な感があるため、地域の関係機関との連携を密にし、イベント等にも取り組んで欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	毎年、中学生体験学習を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	多職種との交流会やケアネットなどに参加し情報交換に努めている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年2月21日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870105610
事業所名	グループホーム 我が家
(ユニット名)	ユニット 2
記入者(管理者)	
氏 名	井口 直之
自己評価作成日	平成30年1月30日

【事業所理念】 「気がつく 気になる 気が利くケアを」	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 災害時の対策を議題とした運営推進会議を開催し、町内会長や民生委員等と災害時には協力し合う体制で話し合いを行ったが、具体的な話が出来ていない。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 職員は、利用者が自分らしさを発揮した笑いの絶えない事業所を目指し、一人ひとりが持っている能力を発揮、維持できるよう支援している。町内会長を務める事業所の家主の協力を得て町内会行事に参加しており、夏祭りを開催する際には近隣住民に参加を呼びかけて交流している。また、かかりつけ医や訪問看護師による24時間医療体制を整備して看取りを実施し、利用者が住み慣れた事業所で穏やかに最期を迎えられるよう支援している。職員は研鑽を積みながら、自分や家族が入居したいと思う事業所づくりに取り組んでいる。
--------------------------------	--	--

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話を大切にし、その中から本人の思いを把握するように努めている。	○		○	共用スペースでの日常会話のほか、居室や入浴介助時など、1対1になる時間を活用し、思いや意向の把握に努めている。意向を表すことが困難な利用者は日常の観察を通して推測し、表情や反応からも汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の様子に気を配り情報を共有しながら、常に本人の立場に立ち検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会の際に現在の本人の様子など話す機会を持ち、本人の思いの把握に努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	本人の情報をケースファイルに記入し共有するようにはしているが、整理は出来ていない。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の会話を皆で共有し、色々な角度からの意見を話し合う機会を持てるよう努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	可能な限り入居前に生活歴や生活環境、趣味などを聞くようにしている。入居以降も本人や家族から聞くことを心掛けており、職員間で情報の共有に努めている。			○	入居時に利用者や家族から、生活歴や環境、趣味等についての情報を収集し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人とのコミュニケーションの中から、現状の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ケースファイルや申し送りなどを利用し、様々な場面での出来事について職員間で共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人と関わりながら不安になっている要因を探り、職員間で対応を考えるようにしている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送りノートやケースファイルを活用し、個々の状況変化にも対応出来る様努めている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の気持ちを大切にし、思いを実現しようという気持ちで考えるようにしている。			○	職員による担当制を敷き、相談しながら生活上の課題の分析や検討をしている。利用者の思いが叶えられるよう、利用者の視点に立った分析ができるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	家族や主治医とも連携を図り、本人にとってより良い生活が送れるよう検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスなどで一人ひとりの課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向が出来る限り反映出来るよう話し合いを行っている。				協議の場に、利用者や家族、医療関係者が同席する機会はないが、暮らし の中で把握している内容や、面会時に確認した家族の意向、診療時の医 療情報等を勘案してケア目標を設定し、利用者の持っている能力を引き出 し、維持できるよう支援内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の現状、面会時等に聞いた家族の意見、訪問診療等での主治医への相談・指示をもとに職員間で話し合いを行い計画書を作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族と協力しながら慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方が出来るよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との協力体制は出来ているが、地域との連携は出来ていない。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランの内容についてはほぼ全員で話し合いを行い、欠席者のある場合は、申し送り、議事録などで共有をしている。			○	カンファレンスの内容を共有し、ケア目標やサービス提供時の留意事項を 把握している。介護計画は個別ケースファイルに綴じ、常に確認できるよう 工夫している。管理者は介護計画に沿った支援内容や、その結果の記載 は不十分であると考えており、現在記録について学習を重ねている。利用 者一人ひとりの日々の暮らしの様子は、個別に記録している。今後は、根 拠のあるモニタリングを効率良く行えるよう工夫した記録や、職員の気づき やアイデア等についても記録することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実践した内容については経過記録に記入する様にしている。それを踏まえ、職員間で状況の把握・確認を行い、日々の支援に?げている。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の経過記録に記入している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきやアイデアについて、申し送りでは出来ている事もあるが、個別の記録には至っていない。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	必ず3か月に一度、計画書の見直しを行っている。			◎	毎月職員会議で現状確認を行うと共に、担当職員が中心になって3か月毎 にモニタリングを実施し、カンファレンスで検討して介護計画の見直しを行っ ている。状態の変化があった場合は、その都度関係者を交えて話し合い、 現状に即した内容になるよう検討している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月一度の職員会議で現状確認を行っている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった場合は、職員間、主治医とで連携を図り対応をしている。家族へも現状の説明及び報告、家族の意向も含め今後についての話し合いをその都度行う様にしている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	職員会などを利用し、職員間で話し合いを行っている。緊急案件については、臨時全体会議を行っている。			◎	毎月開催しているカンファレンスで検討しているほか、申し送り時に気づき や提案を出し合って協議している。検討した内容は申し送りノート及び議事 録を作成して回覧し、押印して周知するよう工夫している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	全員から意見を聞き発言出来る様にしているが、積極的な発言に至っていない。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	開催日時を1か月前に決めており、日中行事として日程を組み込んでいる。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議議事録を作成し、全職員に回覧及び詳細は申し送りにて正確に伝達する様にしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し、情報の伝達・共有を行っている。			○	日々の伝達内容は申し送りノートを活用し、確認印を押している。医療情報 については専用記録簿に経時的に記録し、情報を伝達している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートで情報の伝達・共有を行い、詳細については経過記録に記入する様にしている。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の様子や会話を通して希望願望を把握し、出来る限り対応する様臨機応変に努めている。	/	/	/	利用者がどうしたいのか常に問いかけ、意向に沿った支援ができるよう心がけており、職員は様々な場面で利用者を選択、決定してもらえるよう働きかけている。また、一緒に楽しめるような雰囲気づくりに努め、食事介助をしながらも心地良い会話を続けている様子が印象的である。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	様々な場面で選択出来る機会・環境作りに努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	分かりやすい話し方や接し方などで、本人が自己決定出来る環境・関係作りに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースを大切にしよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	常に職員は明るく接し、笑顔の会話を心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	傍に寄り添い本人の表情や仕種などを注意深く観察し、本人の思いを汲取ることが出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	勉強会や研修などで学ぶ機会をつくり、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応を行うよう努めている。	○	○	○	管理者は職員に対して常に自分に置き換えて考えるよう指導しており、利用者に敬意を持って接するよう心がけ、親しい関係の中でも優しく丁寧な声かけをしている様子が見られた。不適切な対応に気づいた時は、その都度注意喚起を行い、見直しの機会を設けている。入浴介助時は羞恥心に配慮し、同性介助を行うようにしている。居室扉は閉じ、入口に長暖簾をかけることで廊下から部屋の中が見えないよう工夫している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	敬意をもって利用者と接する事を心掛けており、プライバシーに関することはさりげない対応をするよう努めている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	扉を閉める、ドアをノックして声掛けを行うなどプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は利用者の占有場所である事を理解し、入室する場合は、ノック及び本人への声掛け、了承を終えてから行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会などで学ぶ機会を設け、個人情報の取り扱いについては理解、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	生活の中で出来る事はして貰える環境をつくり、分からない事などは教えて貰ったり助言を貰い、感謝の気持ちを伝えながら、共に生活をしているという事を意識しあえる関係作りに努めている。	/	/	/	利用者同士で肩もみをしたり、一緒に調理の下ごしらえをしたりなど、互いに支え合っている。孤立しがちな利用者には声をかけているが、無理強いないようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係を理解し、より良い関係作りが出来るよう心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日常の中から利用者同士の関係を観察・把握し、より良い関係性が保てるように席決めをしたり、世話役に入ったりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際は双方から各居室で話を聞き、解決策を見つけるよう努めている。他利用者へのフォローも行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人との会話や、入所時・面会時に家族や関係者から話を聞くよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との会話や家族・関係者の面会時に、これまでの暮らしの様子や馴染みの店などを聞くよう努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族に協力をして貰い、馴染の場所や知人宅への訪問等出来るよう努めている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会の際は、気兼ねなく過ごして貰える様居室で対応している。いつでも気軽に訪れて貰える様、職員の明るい対応を心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	○	本人の希望に合った外出支援が出来るように努めている。また、職員では対応が難しい時は家族に協力して貰うときもある。	×	○	○	気候の良い時は、近隣の住宅地を散歩したり、近くのスーパーやコンビニで買い物したり、玄関のベンチに腰かけて外気浴を楽しんでいる。重度の利用者もテラスに出て日光浴をしており、シャボン玉をすることもある。家族の協力を得て、季節の花見に出かける利用者や、自宅に帰る利用者もいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティア、サポーターとの協力体制が出来ておらず、外出支援の実現が出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い時には、敷地内ではあるが戸外に出て過ごせるよう努めている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	お墓参りや実家など、家族に協力して貰いながら、本人の希望に添えるよう努めている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症について理解しつつ、なぜそうなるのかを常に考え、職員間で話し合いを行い、状況の改善に努めている。				生活の中で活動的に過ごすことが心身機能の維持向上に役立つと考えており、できる家事は一緒に行い、計算ドリルなどの得意なことを楽しんでも行えるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下については学ぶ機会を都度設けている。食事前の口腔体操やリハビリ体操、生活リハビリを通して、維持・向上が図れるよう努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	利用者の力を把握し、個々のレベルに合わせた対応が出来るよう環境・場面作りに努めている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	面会や本人との会話などから思いを聞き把握に努めている。				洗濯物干しや調理を自分の役割だと思って行っている利用者もいる。入居時不穏状態にあった利用者に掃除を依頼し、感謝の言葉を返したことで、安心してもらえたこともある。また、縫い物や編み物、塗り絵など、好きなことを楽しんでもできるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々のレベルを把握し、自分から進んで何かに取り組む意欲や喜びを感じて貰えるような環境作りに努めている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域行事の参加など地域と触れ合う機会を設けているが、役割などが持てるまでには至っていない。				

愛媛県グループホーム我が家

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人と相談しながら服を選んだり、髪形を決めたり、その人らしさが保てるよう支援している。				整容の乱れや食べこぼしに気づいた時は、さりげなく居室に誘導し、着替えてもらうようにしている。重度の利用者については、毎朝整容や更衣介助を行い、共用スペースで過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時は馴染の物を持ってきてもらっている。本人の好みを聞きながら、希望にそえる様努めている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人に確認しながら、一緒に考え支援する様努めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出などの時は、前もって本人・家族と相談しながら準備している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人のプライドに配慮し声掛け等行うよう努めている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望者には家族に協力をして貰い、馴染の店へ行けるよう支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	2か月に一度訪問理容で、カットして貰っている。起床時には、着替え、整容を行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べる事の大切さ、食事の楽しさを理解している。				週3回買い物に行って購入した食材を見て、利用者の希望も聞きながら献立を考え、各ユニットで調理している。利用者は野菜の下ごしらえや調理・食後の片付けなど、できることを手伝ってもらっている。利用者の好みや要望を考慮し、昔懐かしいものや季節感のあるものをメニューに取り入れている。茶碗や湯呑は使い勝手のいい個人専用のものを使用している。重度の利用者も食べたいという意欲を持ってもらえるよう、食材の話をするなど配慮している。職員も一緒に食卓を囲んでおり、優しく声をかけながら食事介助をしている。献立を考える時は、前日のメニューを確認し、蛋白質食材を適切に取り入れるなど、利用者の栄養バランスを第一に考慮し偏りがないよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	出来る事には参加して貰っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	食事作りに関わって貰う事で、自身の役割・自信・達成感に繋がるよう支援している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	日々の会話や家族からの聞き取りなどを通し、好みやアレルギーなどを把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者のリクエストや行事食を通して、季節感のある食事の提供に努めている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	咀嚼が不十分な方にはミキサーや刻みを入れ、出来るだけ味を損なわない様配慮し、利用者の状態に合わせた食器・食事形態で提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	馴染の物を使用して貰っている。食事の状況を観察し、本人に合ったものを使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食事をしながら様子観察を行い、必要な利用者にはさりげないサポートや声掛けを行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度であっても一緒に食卓を囲み食事を摂って、家庭的な雰囲気を味わえるよう努めている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりの1日の食事量・水分量はチェックし対応できている。栄養士不在のためカロリー計算までは出来ていない。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取の少ない利用者には、小まめな声掛けや本人の好みの物を提供したり、食事量が少ない場合は、本人の食べれるものを提供したり、主治医に相談し栄養補助食品などを使用したりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	週3回職員がバランスよく食材を購入し、各食事担当者が食材を余すことなく調理している。定期的に献立については話し合いをしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日、調理器具・布巾の消毒を行っている。食材は賞味期限をみて調理を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性は学ぶ機会を設けており、重要性は理解している。				口腔ケアは毎日行っており、職員全員が利用者個々の口腔内の状態を把握している。利用者に合った義歯を調整することで、食事時の座位姿勢が改善した利用者もあり、口腔ケアの効果を実感している。訪問歯科診療を利用し、ブラッシング指導を受けている利用者もいるなど、職員が協働し口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	毎日のの口腔ケアで状態の把握に努めている。訪問歯科による健康チェックを行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科より正しい口腔ケアの仕方や利用者に合った歯ブラシの指導を受けている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日の洗浄と定期的な消毒を行っている。破損が無い確認・取扱には注意している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	一人ひとりの能力・習慣に合わせた声掛けや見守り・介助を行い、口腔内の健康維持に努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	訪問歯科と連携を図り、状態改善に努めている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立は生きていく上で大変重要であり、オムツの使用が心身に与える影響が大きい事を理解している。				利用者一人ひとりの排泄機能やパターンを把握し、状態や時間に合わせて適切な排泄用品が選択できるよう話し合っており決めている。費用負担を考慮し、使用状況の再検討を行うなど、利用者個々の状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会などで学び理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	時間ごとの一人ひとりのチェック表を作成し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	定期的に会議などを利用し、職員間でオムツ使用について話し合い見直しを行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	衣服や健康状態など困難にしている原因を探り、改善に向け職員間で検討し取り組むよう努めている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表から本人のパターンを把握し、早めの声掛け誘導を行うよう努めている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	オムツを使用する際は、本人に配慮しながら意向も踏まえて使用している。家族に現状の説明をした上で相談しながら使用するようになっている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	利用者の生活パターンを把握し、随時職員間で話し合い適切なものを使用するよう努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	乳製品や食物繊維の多い物を取り入れるようになっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	△	一人ひとりのペースに合わせて入浴しているが、職員の人員配置により時間帯は決まっている。	◎		△	2～3日に1回、一般家庭浴槽に入浴できるよう支援している。入浴時間や湯の温度、入浴剤の使用などは利用者の要望に沿っているが、入浴時間帯は職員体制によって決められているため、利用者の意向に沿った支援にも取り組んで欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個々の好みや習慣に合わせて入浴が出来るよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事はして貰い、安心して入浴出来るよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒む原因を探り、臨機応変な職員対応をしたり、家族に協力して貰ったりしながら快く入浴できるよう努めている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日のバイタル測定や健康状態を確認し、本人の意向を聞いたうえで、入浴の可否を決めている。入浴後の状態観察も行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の睡眠状態は毎日申し送りを行い職員間で情報の共有ができています。				現在医師と相談し薬剤を使用している利用者もいるが、日中の活動を増やすようにするなど、安易に薬に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方などを職員間で検討し、質の良い睡眠が取れるよう支援に努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	様々な角度から出来る限り薬に頼らない改善策を検討している。家族や主治医と相談しながら薬の調整を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々のリズムや体調に配慮しながら休息が取れる様支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を所持したり手紙を出したり、希望する利用者には自由に連絡が出来るよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人の希望があれば手助けの支援を行っているが、職員側から積極的には出来ていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば自由に電話出来るよう支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたはがきや手紙を目の届くところに飾っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人の希望があればその都度家族に協力して貰っているが、定期的なやり取りは行えてない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持し自由に使える事の大切さを理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	嗜好品の買い物に行く機会を設け、極力自分で精算をして貰うよう支援している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	常に職員同行で買い物に行っており、先方の理解や協力を得る働きかけは出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望を聞いた上で家族と相談し支援の在り方を決めている。金銭を所持することで精神に安定をきたす方については少額の金銭を所持して貰っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	金銭の所持方法については、入所時に家族・本人と話し合いをし理解して貰っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。（預り金規程、出納帳の確認等）。	◎	金銭の管理方法や報告方法は契約時に家族へ説明をし同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の要望についてはその都度検討し、出来る範囲で実現できるよう柔軟な対応に努めている。	○		○	家族の協力を得て、自宅や墓参りに行ったり、法要に参列するなどの支援にも努めている。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽 に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をして いる。	○	玄関先にベンチを置き誰でも休息できるようにしている。	◎	◎	◎	玄関先には家族がつくった木製の長椅子があり、利用者だけではなく、近 所の子どもたちの遊び場としても活用されている。ゆるやかなスロープが設 置されており、車いす移動の利用者が容易に出入りできるよう配慮されて いる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物 品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。 （天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要な ものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な 雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	一般的な家庭の様なキッチン・リビングで、カウンターから常に会話が出来る造りになっている。見 やすいところに時計やカレンダーなどを設置し、日時が自分で確認できるようにしている。	○	○	○	オープンキッチンのある共用空間は明るく清潔で、椅子席とソファ席が設け られている。掃き出し窓からテラスに出られるようになっており、ベンチに腰 掛けて日光浴を楽しむことができる。毎日掃除を行い、こまめな換気を行う など、清潔保持に努めている。敷地内にある家庭菜園で、毎年中学生と一 緒に芋掘りをしたり、壁には行事写真、ユニット入口には雛人形を飾るな ど、季節感を感じられるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、小まめな換気と遮光に努めている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働き かける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生 活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫し ている。	○	壁には行事の写真を飾ったり、季節感のある飾りつけをしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気 配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしてい る。	○	リビングにはソファを設置し、それぞれが思い思いにくつろげるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工 夫している。	○	居室入口に暖簾を掛け、共用部分には扉があり直接見えない造りになっている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	◎	入所時に使い慣れた物を自由に持ち込んで貰っている。配置に関しても本人や家族と相談しなが ら居心地良く過ごせるよう努めている。	○		○	エアコンやベッド、クローゼットが設置され、タンスや椅子、テレビなど好み の家具を配置するなど、居心地良く暮らせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかる こと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者の力を把握し個々のレベルに合わせた対応が出来るよう、廊下やトイレ・浴室に手すりを設 置したり出来る限り自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。			○	建物全体がバリアフリー構造になっており、要所要所に手すりが設置され ている。表札を立体的にしたり、トイレ表示を利用者にわかりやすいよう工 夫するなど、利用者が自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討 し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫を している。	○	居室・トイレ・浴室などには分かりやすく表札をかけている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつで も手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれて いる。（ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の 品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	◎	利用者に出来る限り自由に使用して貰えるよう空間づくりに努めている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟） の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解してい る。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの 異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきら め・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメ リット等）	○	代表者及び全ての職員が施錠することによっておこる弊害について理解している。	◎	○	○	職員は施錠による弊害について理解しており、日中玄関は自由に入出入りす ることができる。家族の要望で利用者の安全確保のため、ユニット入口は 鍵をかけているが、職員は常に利用者に寄り添っており、要望があれば出 入りすることはできる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っ ている。安全を優先するために施錠を望む家族に対して は、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵を掛けない自由な暮らしについて家族への理解は図っているが、徘徊による事故などの経験が ある家族は施錠への安心感が大い。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等）。	×	各ユニットの扉には暗証番号ロックをかけており、ロックが掛かる事で安心する家族も多く開錠に 至っていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴など留意事項について一目でわかるよう個人のケースファイル表紙裏に記入している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々のバイタル・食事量・排便の有無などをチェックシートに記入している。常に心身の観察を行い、変化や状態変化の詳細は経過記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医療連携により24時間体制で相談できるようにしている。些細な事でも相談できるよう日頃より関係を築いており、適切な対応が出来るよう努めている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前に本人・家族や担当ケアマネから受療状況を聞き把握している。希望の医療機関へ受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人の状態を考慮し、家族・本人と相談の上かかりつけ医を決めている。医療機関と連携を図り、本人にとって適切な医療が受けられるよう努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	往診結果は家族へ報告をするようにしており、必要に応じて相談・話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は本人の生活習慣や心身機能などの情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は病院へ行き本人の状態の把握に努めている。また主治医や担当看護師・関係者と、早期退院の為の情報交換や話し合いを行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	交流会への参加等関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の状況報告は定期的に訪問看護へ行っており、相談・指示が貰えるようにしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	必要時には随時相談できる体制をとっており、早期発見・治療に?げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個々のファイルに薬についてすぐに確認できるように薬情を入れており、利用者の薬の把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	医師の指示通り服薬できている。薬のセットや服薬時は、利用者名、日付、時間を確認し事故防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	本人の状況を日々職員間で共有し、変化がある場合は話し合いをしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化や異常がないか常に職員間で情報を共有し、必要に応じて主治医へ相談、家族への連絡を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や状態変化の段階ごとに家族と話し合う機会を設け、意向を確認しながら今後の方針を共有している。				かかりつけ医と訪問看護ステーションによる24時間医療体制を整え、看取り対応は万全である。かかりつけ医を交え、家族と職員が利用者の状態の変化に応じ方針を話し合うなど、共有に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態変化のたびに主治医に相談・指示を仰いでいる。職員・主治医・家族等と今後の対応について、繰り返し方針を共有している。。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の知識や技量、看取りについての思いを個々に聞き、どのような支援が出来るかを判断している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「できること・できないこと」を十分に説明したうえで、今後の方針を本人・家族と共に考えている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期を本人が安楽に過ごせるよう、家族や訪看・主治医と連携を図り、チームで支援できるよう努めている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	家族の心情に共感するよう努めている。家族の精神的負担の軽減につながるよう支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内外の研修や勉強会で定期的に学んでいる。感染症マニュアルの作成している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	口頭での説明は定期的に行っているが訓練には至っていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政から送られてきた情報や医療機関から入手した情報について、申し送りなどで情報の共有を行っている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時には、一時的な面会謝絶など随時対応をしている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い・うがい・消毒・マスク着用など感染症予防に随時対応している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	常に連絡・報告・相談を行い、必要に応じて家族にも関わって貰いながら共に協力し本人を支えていける関係作りに努めている。				家族と共に利用者を支援したいという考えを持ち、良好な関係が構築できるよう努めている。花見や夏祭りなどの行事を家族と一緒に楽しんでおり、年4回発行する便りに担当者が手紙を添えて利用者の状況や思いも伝えている。面会時には必ず声をかけて状況を報告し、要望を聞いている。「家族へのお知らせ掲示板」を設置し、事業所の運営面等伝達事項を家族に伝えるよう工夫しているが、周知には至っていないため、文書を送付するなど、積極的に取り組んでもらいたい。家族の面会時にはいつでも相談できるような環境を整備し、気軽に話し合えるような関係づくりにも努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	◎	来訪時、積極的にコミュニケーションを図っており、気軽に話かけて貰える雰囲気づくりに努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	◎	ホーム主催の行事への参加機会をつくっている。	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	○	年に4回我が家便りを発行し、写真や活動状況を記入し送付している。個々でアルバムを作成しており、面会の際には見て貰っている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時などに家族と話す時間をつくり、知りたい情報の報告を行うよう努めている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	認知症の関わり方や病気についての理解等、家族が抱えている問題を把握し、本人とより良い関係が築いていけるよう支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	○	事業所の運営上の事柄や出来事については、文章でその都度報告し、同意を得ている。人事については、口頭などで随時報告している。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	行事を通して家族同士の交流が図れる機会を提供している。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	利用者の状況変化のたびに家族と話し合いを行い、起こり得るリスクについて説明している。本人・家族が納得のいく対応が出来るよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には必ず挨拶・近況報告を行い、相談しやすい関係作りに努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約内容についてはその都度具体的な説明を行い、理解・納得して貰っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至る過程を細かく説明し、納得して貰っている。退居先については家族の希望や本人の状態に適した場所へ移れるよう努めている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	◎	契約時には具体的に説明を行い同意を得ている。改定時には文書にて説明、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	町内会への参加、地域のボランティアを招いての施設行事を行い、事業所について理解を図る努力をしている。	/	○	/	町内会に加入し、町内会長を務める事業所の家主の支援を受け、情報を得ながら地域交流の機会を持っている。夏祭りを開催する時は近所にチラシを配布して呼びかけ、多くの住民が集っている。また、地区敬老会に参加しているほか、舞踊ボランティアや中学生の体験学習の受け入れを行うなど、地域との交流も盛んである。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	日常的な挨拶や町内会行事への参加、施設行事への地域の方の参加を通して地域との繋がりに努めている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	殆どできていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	玄関先にベンチを置き誰でも休息できるようにしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	玄関先が近所の子供の遊び場になっており、日頃から挨拶する機会はある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	年に数回地域ボランティアの方による施設行事を行い、交流を通して利用者の生活の充実を図るよう努めている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握が不十分である。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	×	近隣の福祉施設とは交流があるが、地域施設への働きかけは出来ていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	ほぼ毎回、利用者や家族、民生委員などの参加がある。	×	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、町内会長、民生委員などの参加を得て開催し、利用者の状況や行事内容、外部評価の取組み等について報告し、参加者からの意見を職員会議で検討し運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	会議では、評価内容や計画内容や取り組みについて報告をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回参加者からも意見などを聞き、それに対しての取り組みや状況の報告等行うよう努めている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	会議中に次の開催日程をその都度伝えている。参加しやすい日時の確認も行う様にしている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は、施設内掲示板にて公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各階に運営理念・ケア理念を掲示し、管理者・職員は日々のケアが理念に基づいたものになる様努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各フロアの目につきやすいところに理念を掲示している。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修や勉強会への参加は自由に出来るようにしており、参加費用についても会社が負担している。				代表者は研修への助成制度を設け、職員の研修参加を積極的に推進するほか、年2回内部研修を実施して職員の質の向上を図っている。また職員の要望を聞き、働きやすい職場環境整備にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	希望の研修には参加できるよう勤務の調整を行っており、スキルアップ出来るよう努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	出来る範囲で努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	希望者には交流会や研修・勉強会などへの参加機会をつくり、意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来る範囲で取り組んでいる。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修や勉強会に参加して学ぶ機会を設け、日常的にも不適切なケアについての話し合いを行っている。				不適切ケアにどのようなものがあるのか、振り返る機会を持って話し合っている。不適切な言動に気づいた場合は、その都度注意喚起を行うなど、職員は対応方法や手順について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の状況を職員から聞くようにしており、問題点については一緒に考えるよう努めている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアは無いか常に注意を払い、報告・連絡・相談を行い防止に努めている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々注意を払い点検している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束をしないケアについて、勉強会で学んだり会議で話し合いを行い周知している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度話し合い検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束の弊害についての説明を行い、様々な角度から提案・相談しながら、拘束しないケアへの理解を図るよう努めている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	一部の職員は理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	利用者や家族の状況を理解した上で、情報の提供や相談にのる等支援に努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	市役所や包括等と必要な際は相談出来るよう連携体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、いつでも見られるように各フロアに置き周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	社内外での研修で実技訓練を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット・事故報告は必ず職員間で回覧し、再発防止策の話し合いを行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりのリスクについて、日ごろから検討し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の対応についての理解と適宜対応方法の検討に努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情については速やかに対応し、必要と思われる場合は市への相談・報告を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対する対策案を速やかに回答し、改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係作りに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の利用者との会話から要望・苦情を聞き出すよう努めている。何でも話して貰える関係作りに努めている。			○	利用者の意見や要望は日常会話の中で聞き取るよう努めており、家族は面会時や運営推進会議で意見を言う機会がある。管理者は職員と個別面談の機会を設けており、意見や提案を出しやすい環境である。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口を明確にし、面会時や電話等いつでも要望・苦情を伝えられる機会をつくり、関係作りに努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に明記しており、家族へ周知している。必要に応じて随時情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運ぶ等行い職員の意見や要望・提案などを聞くよう努めている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	適宜個人面談を行い、職員の意見や要望・提案を聞く機会をもち、共に検討している。			○	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	より良いサービスに繋げるためのサービス評価である事を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。				職員は自己評価表を読むことで、何が求められているのか再認識する機会になったと感じている。評価結果や目標達成計画の実施状況については運営推進会議で報告し、参加者からは建設的な意見をいただき、今後の事業所運営に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して明らかとなった現状や課題を知ること、職員間の意識統一や知識・技術の向上のための学習に取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成に向け取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	推進会議で評価結果・目標達成計画の報告を行い、参加者から助言や提案を頂いている。	×	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議や職員会議などで取り組みの成果を報告し、確認を行っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害時対応マニュアルを作成し、職員は周知している。				火災避難訓練だけではなく、その他の災害避難訓練についても検討しており、近隣の認知症高齢者を受け入れすることも考えている。そのため、備蓄品の整備や地区防災組織との協力体制について具体的方策を検討しているなど、緊急災害時等の地域との連携強化の取組みを考えており、今後に期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回、日中・夜間を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は年2回行っている。その他の備品については定期的に点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議などで町内会や民生委員と話し合い、連携が図れるよう努めている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の交流会などに参加し、ネットワークづくりに努めている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーター養成講座開催のサポートや研修への参加など、地域に向けての情報発信や啓発活動などに取り組んでいる。				現在のところ相談があるのを待っている状況で、消極的な感じがするので、事業所のPRを行うなど、相談ニーズの収集にも積極的に努めるなどの取組みが望まれる。地域からの要請を受け、小学生を対象とした認知症啓発活動に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたりしているが、不十分な感があるため、地域の関係機関との連携を密にし、イベント等にも取り組んで欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば支援を行っている。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	毎年、中学生体験学習を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	多職種との交流会やケアネットなどに参加し情報交換に努めている。			△	